



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2 使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	北海道大学総合研究棟(工学系)	階数	地上4F
建設地	札幌市北区北13条西8丁目	構造	RC造
用途地域	一種住居地域、近隣商業地域、商業地域、準防火地域	平均居住人員	600 人
気候区分	2地域	年間使用時間	7,200 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年4月 予定	評価の実施日	2015年12月7日
敷地面積	1,735,282 m ²	作成者	柳田圭一
建築面積	1,386 m ²	確認日	2014年12月10日
延床面積	4,424 m ²	確認者	松井和彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
<p>総合 北海道大学構内、工学部エリアの群棟をなす建物として、柱型を強調した周辺既存建物の外観構成を踏襲しシンプルな矩形とした。 階高のゆとりを確保と居空間に耐震壁を設けず、実験機器やレイアウトの変更へ柔軟に対応できる研究・実験施設とした。</p>	<p>A 省エネルギー 100mmの断熱材により建物の高断熱化を図り、外断熱とすることで躯体蓄熱による冬期暖房負荷低減を図った。 個別空調方式を採用することで、空調エネルギーの効率化を図った。 節水型衛生器具の採用により、水使用量の削減を図った。</p>	<p>B 省資源等 内外装材のパターンをなるべく統一し、建物スパンを900モジュールで統一することで、仕上げの材料ロスが少ない計画とした。</p>
<p>C 緑化 特になし</p>	<p>D 雪処理 陸屋根形状とすることで、建物周囲への落雪に配慮した。 玄関前をピロティ空間として、内部への雪の吹込みへ配慮するとともに、アプローチ部分の除雪が不要な計画とした。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される